

# アシスト

市川市サッカー協会第4種委員会 委員長 石原孝幸

## 新年がスタートし、早一カ月が経ちました

2019年。平成31年がスタートし一カ月がたちました。今年は正月から好天が続いておりませんが、皆様いかがお過ごしでしょうか。本年もよろしくお願いいたします。

正月恒例の市川シャポーカップ2018親善大会6年生の部は、**富美浜SCと市川MFCフックス**が勝ち残りしました。シャポーカップとなってからは、どちらのクラブも初の決勝進出ということで、フレッシュな顔ぶれとなりました。両チームとも3月3日に行われるフクダ電子アリーナでの決勝戦を目指してしっかり準備をし、当日を迎えてほしいと思います。

本年度も残すところ2カ月となり、まとめの月に入ります。4種委員会では毎年この時期に一年間のまとめとして「**年度末確認事項**」を協議し、蓄積をして、4種委員会として守るべきルールを積み上げるとともに次年度の指針としています。本年度も3月2日の代表者会議で「30年度末確認事項」を議題としますので、何かございましたら、各クラブ代表、各支部長を通じてお申し出下さい。よろしくお願いいたします。

さて、先日、どうしても足が遠のき、**近づけないでいた場所**にやっと行くことができました。それは「中国分スポーツ広場」です。正確には「中国分スポーツ広場」があった場所です。

皆さまご承知のように、「中国分スポーツ広場」は平成29年度末を以て閉鎖となりました。閉鎖となった経緯は委員長通信18号に掲載した通りです。

「中国分スポーツ広場」が無くなると知った時の大きな怒りと、無くなっていく様を、ただ手をこまねいて見ているしかなかった失望感は計り知れません。

私が中々近づけないでいたのは、**あの時の失望感**を思い出すことに耐えられなかったからです。しかし、ある決断をした今、やっと近づくことができました。

かつての中国分スポーツ広場は右の写真のように、ガランとした更地になっていました。まだ、次の予定は立っていないようです。あまりの天気の良いさに、しばらく感慨にふけっていると、かつての人工芝で子どもたちがサッカーに興じている姿が蘇ってきました。



「子ども達は、『芝生の上でサッカーがしたい』と望んでいる。子ども達にはその声を届ける術がない。だから、サッカーを愛する子ども達の一番身近にいる私たちが、子ども達の代弁者として、その声を届ける義務がある。」

このことを改めて強く実感するとともに、この大人としての義務、**サッカーを愛する子ども達への義務**を成し遂げる決意を、改めて強く持つことができました。